



カット：山崎俊生



北海道立向陽ヶ丘病院 病院紹介

北海道立向陽ヶ丘病院 院長
三上 敦大

1 はじめに

当院は、北海道が設置し、北海道病院事業管理者が運営する6病院のひとつで、北海道北東部のオホーツク海に面した網走市向陽ヶ丘にあります。網走といえば、何と云っても、高倉健さん主演の映画、網走番外地が全国的にも有名だと思っておりますが、ご賛同いただけるのは昭和世代の方だけかもしれません。

病院名のとおり、丘の上に建つ当院から見える網走港や2005年に世界遺産に登録された知床の山々の眺望は素晴らしく、特に冬は、遠くアムール川河口で生まれ南下した流水に覆い尽くされるオホーツク海の風景は、厳しくも雄大な北海道らしい大自然を感じることが出来ます。

この流水は、豊富な栄養分や鉄分を含んでおり、ホタテ、さけ、かになど、盛り沢山の海の幸を育む源となっています。

2 病院概要

(1) 所在地 網走市向陽ヶ丘
1丁目5番1号



写真1 初代の病院全景

- (2) 敷地面積 27,220.12㎡
- (3) 施設
病院庁舎 鉄筋コンクリート造地上4階・地下1階建、6,187.95㎡
デイケア棟 鉄筋コンクリート造地上2階・地下1階建、886.18㎡
- (4) 診療科目 精神科、心療内科
- (5) 病床数 105床（3階病棟56床、4階病棟49床）
- (6) 職員数 84名（医師5名、看護師55名、医療技術職員15名、事務職員9名）
- (7) 1日平均患者数 入院60.6人、外来103.1人、デイケア24.0人、訪問看護13.1人
(令和2年度実績)

3 沿革

- 昭和27年7月 北海道立網走精神衛生相談所設置
- 昭和27年12月 網走市立向陽ヶ丘病院設置（20床）
- 昭和29年4月 北海道立向陽ヶ丘病院開設（90床）

- 昭和45年4月 旧病院新築（200床）
- 平成3年8月 応急入院病院指定
- 平成8年3月 デイケア棟新築
- 平成11年5月 精神科救急医療施設等指定
- 平成11年8月 精神科救急医療システム参加
(北見赤十字病院と当院の2病院による輪番制)
- 平成15年11月 児童発達外来サテライト診療の実施
- 平成24年4月 医療観察法に基づく通院医療機関指定
- 平成26年4月 認知症疾患医療センター指定、ものわすれ外来開設
- 平成26年12月 現病院新築工事着工
- 平成28年3月 現病院新築工事完成
- 平成28年6月 現病院供用開始（105床）
- 平成29年3月 北海道病院事業改革推進プラン策定（H29年度～R2年度）
- 平成29年4月 地方公営企業法の



写真2 旧病院庁舎



写真3 現病院全景



写真4 病院から見た網走港と知床連峰

全部適用
平成31年3月 標榜科目に心療内科を追加
令和3年3月 北海道病院事業改革推進プラン策定（R3年度～R7年度）

4 当院の役割と機能、診療体制

精神医療の専門病院として、主として、成人及び高齢者の救急・急性期医療に関し、オホーツク第三次保健医療福祉圏域において、他の医療機関、関係機関と連携して中心的な役割を担うとともに、訪問看護や精神科デイケアなどによる患者の社会復帰と在宅支援を実施しています。

(1) 外来診療

精神科医療は、入院治療中心から地域で生活することへの支援に変化しており、精神疾患を持ちながらも症状をコントロールし、地域でその人らしく生活できることを目指した生活支援へと外来の役割が拡大しています。

- ① 午前外来 月～金曜日（3～4診体制）
- ② 午後外来 火、木曜日（2診体制）

③ 新患外来 月～金曜日（各曜日3名程）

④ 予約 新患・再診とも予約制

(2) もの忘れ外来（認知症疾患医療センター）

鑑別診断や治療方針の選定が必要な方に、専門の医師による診察を行います。認知症疾患に対し診察と検査（神経心理検査、血液検査、CT及び必要時には、連携医療機関でSPECT等）を行い、診断に基づいた初期対応や治療等を行います。

行動障害や精神症状（周辺症状）を呈している認知症の方には、鑑別診断や薬物療法等の治療を行い、必要に応じて入院治療を行う体制を整えています。

(3) 入院診療

各階の病棟のデイルーム（3階は開放・閉鎖のフロアごとにデイルームを配置）からは、知床連山やオホーツクの海（冬は流水）を望むことができます。

各病室は、個室8㎡以上、4床室30㎡以上の広さを備えています。

看護は患者参加型の看護計画を

実践し、作業療法はセルフケア能力の向上と低下予防を目的に個別性を考慮したプログラムを取り入れております。

また、退院にあたりましては、患者さんの入院中に患家を訪問したり、地域関係者との連携を行うなど、退院後も患者さん・家族の方が安心して地域で生活できますようお手伝いさせていただいております。

① 3階病棟56床（看護師3名夜勤）

・開放フロア 33床

統合失調症、感情障害、神経症、てんかん、依存症、人格障害などの患者

・閉鎖フロア 23床（うち保護室1床）

主に老年期精神疾患の患者

② 4階病棟49床（看護師2名夜勤）

・閉鎖フロア49床（うち保護室5床）

急性期の統合失調症、気分障害、神経症、依存症、人格障害、認知症などの患者

(4) デイケア

創作活動や体操、グループ活動

のほか、長期休職中の方、休職をくり返している方など、復職に向けた準備をしたい方のための復職プログラムを行っています。

デイケア利用時間中は、いつでも見学できますのでご相談ください。

(5) 訪問看護

当院を退院した方、通院中の方などを対象に、患者さま・ご家族の方に対し訪問看護を行っています。また、患者さまが安心して地域生活を継続できるよう院内及び地域の多職種と連携を図り、患者さま・家族の方の思いに寄り沿い、患者家族のストレンスを大切にしたい患者参加型看護計画の立案、目標共有を図り看護ケアを提供しています。

(6) 地域連携室(相談支援を含む)

地域連携室副室長、精神保健福祉士が地域連携窓口となり対応しています。地域連携科は主に訪問看護業務を中心としながら、地域の多職種会議への参加等を行い地域連携業務を行っています。地域連携室は地域の精神科医療のニーズを把握し、他の医療機関、関係施設、地域の多職種と連携強化を図り、患者さまが安心して地域で暮らすための精神科医療の提供を行っています。

(7) 臨床心理

心理学の知識や技法をベースとし、患者の心理・行動面の障害の治療や援助を行うものです。具体

的には、心理アセスメントの一つとしての心理検査や各種の心理療法の提供などを行っています。

(8) 認知症疾患医療センター

オホーツク三次保健医療福祉圏の認知症疾患の保健医療水準の向上を図るためのものであり、具体的には保健・医療・福祉・介護関係機関等と連携し、鑑別診断、急性期医療、専門医療相談等を実施するとともに、関係者への研修等を行うこととしています。また、認知症の方が地域で安心して生活できるよう、医療機関同士、更には医療と介護の連携の推進役となり、地域の支援体制の充実を図ることとしています。

(9) 中央部門(薬局、栄養指導、放射線科、臨床検査科)

医学の進歩や高度化に合わせ研鑽を重ね、各々の国家資格を活かした業務を担当しています。

5 新型コロナウイルス感染症への対応

令和3年8月2日現在、デルタ株への置き換わりにより、新型コロナウイルス感染症の第5波は拡大を続け、北海道には、まん延防止等重点措置が適用されました。当院の所在地域においても、クラスターの発生等により、感染者数の高止まり傾向が持続しています。

当院では、感染対策委員会や感染対策実務者委員会が中心となり、院内感染制御チームが先頭に

立って、労をいとわず、きめ細やかな感染対策や職員の健康管理に奔走しており、各部署で協力して入館者の検温、手指消毒の励行などに取り組んでいます。

また、クラスター発生中の施設や宿泊療養施設、他県医療機関への看護師派遣並びに地元医師会の医療機関と連携して、新型コロナウイルスワクチンの集団接種に協力させていただきました。これまで新型コロナウイルス感染症への対応を進める中で、院内各部署で協力する体制や、他の医療機関、関係機関との連携の大切さ、重要性を改めて認識しました。

6 おわりに

当院は、

「こころの和と輪」を大切に、
患者さま、ご家族、地域の皆さまと手を携え、信頼と満足の医療を目指します。

を理念としております。

当院の診療圏域では、今後、全道平均を上回るスピードで、人口減少や少子高齢化の進行が推測されており、また、新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くのか先が見通せない中ではありますが、引き続き、他の医療機関、関係機関との連携を深め、職員全体で協力して、親しみやすい病院、地域に根ざした病院、いざというときに頼っていただけるような病院を目指して参ります。